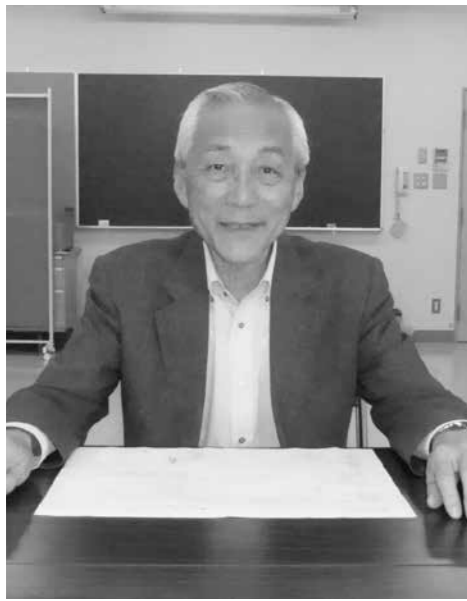


彦根市事業公社

し尿収集時の臭気対策を促進



「下水道化エリアでもし尿処理業務はなくなる」と山田氏



「従業員から高い評価を受けた」と馬淵氏

し尿収集事業で長年課題になっていた臭気問題。滋賀県北東部、琵琶湖の東岸に位置する彦根市でし尿、塵芥の収集運搬と浄化槽の維持管理業務を行う彦根市事業公社（滋賀県彦根市、大久保貴理理事長、0749-234-1135）も例外ではなくこの問題に悩んでいた。同公社の臭気対策は「脱臭剤」が課題になっていたものの燃焼式の脱臭装置を導入していたが、2016年11月から東邦車輛のふん便臭を芳香に変える潤滑油「デオマジックVC1オイル」を導入。以後、臭気問題による苦情は全くなくなったという。同製品導入のきっかけや効果を中心に山田彦生常務理事と馬淵亮一事務局長に話をうかがった。

同公社の事業について 馬淵氏は「16年度が10馬淵氏は「現在、彦根市内全域のし尿、塵芥類の収集事業を核に浄化槽の維持管理、清掃事業と、同市指定のごみ袋の製造販売を行っている。職員39人中、し尿収集担当は16人だ。彦根市の人口は5月1日現在11万2677人、世帯数は4万7430世帯。このうち同公社が維持管理している浄化槽の設置数は443基（単独238基、合併205基）だ。汲み取りは市内に約2500カ所ほどある」と説明。加えて彦根市や琵琶湖のイベント開催時などは多くの仮設トイレが設置され、し尿の収集運搬の機会が増えている模様。そのため臭気に配慮する機会も増えているという。

現在、臭気対策が必要な全車両に当たる7台のし尿収集車両（3・5ト1台、2・6ト1台）と2台の浄化槽清掃作業車（3・0ト1台、2・1ト1台）と同製品（1缶20リ）を導入した。

馬淵氏は「16年度が10年、17年度は20缶と年々購入量を増やし、18年度は30缶以上の購入を予算計上している」とする。導入のきっかけは「観光地で作業する機会も多く、臭気については一層の配慮が必要になっていた同公社だった。同製品を知ったのは、従業員が読んでいた日刊スポーツの記事（16年10月7日付）だった。記事を読んだ後、HPなどで詳細を確認後に東邦車輛に問い合わせさせて試供品を手入。16年11月から購入した。導入後、臭気による苦情は全くなくなった。中心街の飲食店や宿泊施設周辺にも現場があるため、こうしたエリアの方が臭いを気にされて作業時間の細かな指定など要望が多く、通常のルート収集では対応できず、一軒だけのために再度、作業にうかがうこともたびたびあった」と、馬淵氏は臭気理由に不効率な作業が避けられなかった状況を語り、同製品導入した。すると、臭気による苦情はゼロになった。従業員からも高い評価を受けた。

「デオマジック VC 1 オイル」の効果を実感 導入後の苦情はゼロに

また、馬淵氏は「何よりも職員への影響が軽減されているのが大きい。以前は、体調によって臭気臭が苦くなることがあったり、作業中に周辺の住民から臭いをつままれるなど煙たい目で見られるために作業員の精神的な影響も散見された。仕方がないことではあったが、同製品導入後に作業員からは『気兼ねなく収集できる』と大きな評価を受けた」とする。

一方、山田彦生常務理事は、「彦根市の下水道普及率は18年3月31日のデータで82・5％となっているが、下水道が居住区に通っても接続に掛かる費用等がネックとなり汲み取りの世帯もまだまだ点在する。仮にエリア内に1件だけでも汲み取りの世帯が残ってれば、作業にうかがわなくてはならない。この場合は下水道に繋がっている世帯からは快く思われないところがある」と、以前は汲み取りの世帯が多かった地域でも、下水道につながってしまえば経過すると、臭いになりだす傾向があることを指摘する。

あることを指摘する。製品の効果については大きな評価を示すものの、問題は価格を安く抑えている。同製品が加盟している清掃公社の集まりと各所で同製品の導入が進めば、大量生産されていくと、価格が反映されるかもしれない。当公社が加盟している清掃公社の集まり

また、山田氏は「何よりも職員への影響が軽減されているのが大きい。以前は、体調によって臭気臭が苦くなることがあったり、作業中に周辺の住民から臭いをつままれるなど煙たい目で見られるために作業員の精神的な影響も散見された。仕方がないことではあったが、同製品導入後に作業員からは『気兼ねなく収集できる』と大きな評価を受けた」とする。

一方、山田彦生常務理事は、「彦根市の下水道普及率は18年3月31日のデータで82・5％となっているが、下水道が居住区に通っても接続に掛かる費用等がネックとなり汲み取りの世帯もまだまだ点在する。仮にエリア内に1件だけでも汲み取りの世帯が残ってれば、作業にうかがわなくてはならない。この場合は下水道に繋がっている世帯からは快く思われないところがある」と、以前は汲み取りの世帯が多かった地域でも、下水道につながってしまえば経過すると、臭いになりだす傾向があることを指摘する。

また、山田氏は「何よりも職員への影響が軽減されているのが大きい。以前は、体調によって臭気臭が苦くなることがあったり、作業中に周辺の住民から臭いをつままれるなど煙たい目で見られるために作業員の精神的な影響も散見された。仕方がないことではあったが、同製品導入後に作業員からは『気兼ねなく収集できる』と大きな評価を受けた」とする。

一方、山田彦生常務理事は、「彦根市の下水道普及率は18年3月31日のデータで82・5％となっているが、下水道が居住区に通っても接続に掛かる費用等がネックとなり汲み取りの世帯もまだまだ点在する。仮にエリア内に1件だけでも汲み取りの世帯が残ってれば、作業にうかがわなくてはならない。この場合は下水道に繋がっている世帯からは快く思われないところがある」と、以前は汲み取りの世帯が多かった地域でも、下水道につながってしまえば経過すると、臭いになりだす傾向があることを指摘する。

また、山田氏は「何よりも職員への影響が軽減されているのが大きい。以前は、体調によって臭気臭が苦くなることがあったり、作業中に周辺の住民から臭いをつままれるなど煙たい目で見られるために作業員の精神的な影響も散見された。仕方がないことではあったが、同製品導入後に作業員からは『気兼ねなく収集できる』と大きな評価を受けた」とする。

一方、山田彦生常務理事は、「彦根市の下水道普及率は18年3月31日のデータで82・5％となっているが、下水道が居住区に通っても接続に掛かる費用等がネックとなり汲み取りの世帯もまだまだ点在する。仮にエリア内に1件だけでも汲み取りの世帯が残ってれば、作業にうかがわなくてはならない。この場合は下水道に繋がっている世帯からは快く思われないところがある」と、以前は汲み取りの世帯が多かった地域でも、下水道につながってしまえば経過すると、臭いになりだす傾向があることを指摘する。

また、山田氏は「何よりも職員への影響が軽減されているのが大きい。以前は、体調によって臭気臭が苦くなることがあったり、作業中に周辺の住民から臭いをつままれるなど煙たい目で見られるために作業員の精神的な影響も散見された。仕方がないことではあったが、同製品導入後に作業員からは『気兼ねなく収集できる』と大きな評価を受けた」とする。

一方、山田彦生常務理事は、「彦根市の下水道普及率は18年3月31日のデータで82・5％となっているが、下水道が居住区に通っても接続に掛かる費用等がネックとなり汲み取りの世帯もまだまだ点在する。仮にエリア内に1件だけでも汲み取りの世帯が残ってれば、作業にうかがわなくてはならない。この場合は下水道に繋がっている世帯からは快く思われないところがある」と、以前は汲み取りの世帯が多かった地域でも、下水道につながってしまえば経過すると、臭いになりだす傾向があることを指摘する。



架装部をパネルで覆っている車輛。見た目にも配慮



デオマジック VC1 オイル

ついに完成

衛生車の臭気問題を解決

衛生車の臭気O化により、作業環境を劇的に改善!!

デオマジックVC1オイル

衛生車の消臭対策に抜群の効果を発揮する真空ポンプ用潤滑油です。今お使いの潤滑油と交換するだけで、脱臭ツールを使わなくても、永年の悩みであった不快臭が芳香に変わります。作業ストレス軽減や雇用の確保、また、作業中を気付かせない周辺配慮にも効果抜群です。

DEOMAGIC™ VC1 Oil
デオマジックVC1オイル

お問い合わせ先
東邦車輛株式会社 部品営業課
〒236-0043 神奈川県横浜市金沢区大川3番1号
TEL:045-784-1195 FAX:045-784-1196
Email:deomagic.vc1@shinmaywa.co.jp

特装自動車の製造販売
東邦車輛株式会社

また、山田氏は「何よりも職員への影響が軽減されているのが大きい。以前は、体調によって臭気臭が苦くなることがあったり、作業中に周辺の住民から臭いをつままれるなど煙たい目で見られるために作業員の精神的な影響も散見された。仕方がないことではあったが、同製品導入後に作業員からは『気兼ねなく収集できる』と大きな評価を受けた」とする。

一方、山田彦生常務理事は、「彦根市の下水道普及率は18年3月31日のデータで82・5％となっているが、下水道が居住区に通っても接続に掛かる費用等がネックとなり汲み取りの世帯もまだまだ点在する。仮にエリア内に1件だけでも汲み取りの世帯が残ってれば、作業にうかがわなくてはならない。この場合は下水道に繋がっている世帯からは快く思われないところがある」と、以前は汲み取りの世帯が多かった地域でも、下水道につながってしまえば経過すると、臭いになりだす傾向があることを指摘する。

また、山田氏は「何よりも職員への影響が軽減されているのが大きい。以前は、体調によって臭気臭が苦くなることがあったり、作業中に周辺の住民から臭いをつままれるなど煙たい目で見られるために作業員の精神的な影響も散見された。仕方がないことではあったが、同製品導入後に作業員からは『気兼ねなく収集できる』と大きな評価を受けた」とする。

一方、山田彦生常務理事は、「彦根市の下水道普及率は18年3月31日のデータで82・5％となっているが、下水道が居住区に通っても接続に掛かる費用等がネックとなり汲み取りの世帯もまだまだ点在する。仮にエリア内に1件だけでも汲み取りの世帯が残ってれば、作業にうかがわなくてはならない。この場合は下水道に繋がっている世帯からは快く思われないところがある」と、以前は汲み取りの世帯が多かった地域でも、下水道につながってしまえば経過すると、臭いになりだす傾向があることを指摘する。



彦根市事業公社。近くにし尿処理場(156缶/日)ごみ焼却施設(90缶/日)がある